

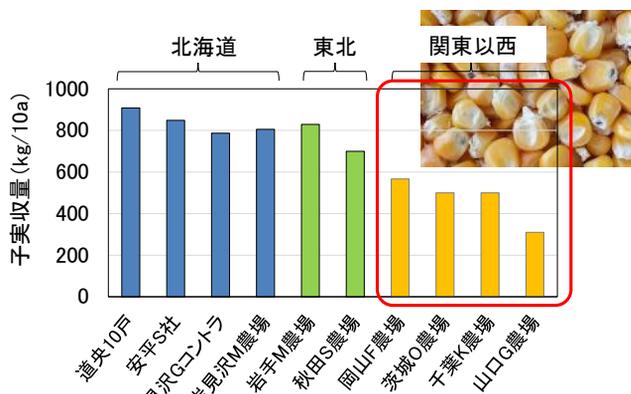
農林水産研究の推進（現場ニーズ対応型研究） 子実用とうもろこし（国産濃厚飼料）の安定多収生産技術の開発 【研究概要】

1. 研究目的

国産濃厚飼料としての子実用とうもろこしについて、特に都府県における化学肥料と化学農薬使用量を低減した安定多収・高品質生産技術を開発し、高い生産性と両立する持続的生産体系を確立する。

2. 研究背景

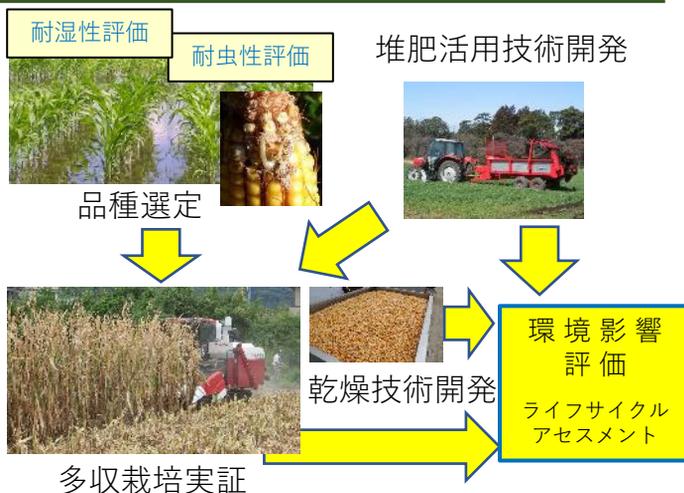
飼料自給率の向上と水田有効活用等の観点から、水田における子実用とうもろこし生産への期待が高まっているが、都府県においては虫害・湿害等の影響により収量が停滞しており、安定多収生産技術を早急に開発する必要がある。また、国内で生産される堆肥を積極的に活用した飼料生産を行うことで、畜産の環境負荷量を低減していく必要がある。



地域ごとの子実用とうもろこしの単収

3. 研究内容

- ①耐病虫害性・耐湿性をもつ品種の選定、堆肥を活用した肥培管理技術の開発および多収栽培技術の実証
- ②穀物コンテナ等を利用した低コストで環境負荷の低い乾燥技術の開発
- ③環境影響評価による子実用とうもろこし国内生産の環境負荷低減効果の解明



4. 達成目標・期待される効果

達成目標

- ・安定的に800kg/10a以上の収量が得られる生産技術の開発
- ・開発技術のマニュアル作成
- ・子実用とうもろこし国産化による環境負荷低減効果の解明



期待される効果

- ・濃厚飼料自給率の向上と畜産・耕種農家の経営安定
- ・畜産および飼料生産における環境負荷量の低減

研究代表機関：農研機構

共同研究機関：北海道立総合研究機構、青森県産業技術センター、茨城県、栃木県、神奈川県、新潟県、長野県、静岡県、徳島県、山形大学